

令和2年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
(I 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業)
事業内容報告書の概要

令和2年度に実施した取組の内容及び成果と課題

1. 事業の実施体制(運営協議会・連絡協議会の構成員等)

◎実施主体:栃木市教育委員会学校教育課

○連携、協力機関:宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
栃木市国際交流協会

・拠点校2校(栃木中央小学校、大平中央小学校)

・日本語指導担当者…拠点校加配教員(県費)2名
日本語指導員(市費)2名
日本語指導サポーター3名(登録制)
母語支援員4名(登録制)

2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること

(2) 拠点校の設置等による指導体制の構築

- ・各拠点校への日本語指導員の配置
- ・各拠点校における週3日の初期指導の実施
- ・日本語指導研修会における拠点校同士の情報交換

(4) 「特別の教育課程」による日本語指導の実施

- ・「特別の教育課程」の編成と「個別の指導計画」作成の周知
- ・「個別の指導計画」に基づいた指導と評価の実施
- ・「個別の指導計画」に基づいた指導実践の共有(日本語指導研修会)

(5) 学力保障・進路指導

- ・「多言語による進学・学校生活ガイダンス」の実施

(6) 日本語指導ができる、又は児童生徒の母語が分かる支援員の派遣

- ・日本語指導サポーターの巡回による日本語指導
- ・母語支援員の入り込みによる母語支援

(12) 成果の普及

- ・教育委員会HPにて、実践の概要と成果の公表

3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること

(2) 拠点校の設置等による指導体制の構築

<成果>

- ・拠点校以外の児童生徒にも巡回による日本語指導を効率よく行うことができた。
- ・日本語指導研修会において情報共有することで、拠点校同士の連携が図られた。

<課題>

- ・児童生徒の人数に対して、指導者の数が不足している。

(4) 「特別の教育課程」による日本語指導の実施

<成果>

- ・児童生徒の日本語の習得状況に合わせた指導ができた。
- ・「個別の指導計画」の共有により、組織的で多面的な指導、支援ができた。

<課題>

- ・「個別の指導計画」の定期的な見直しが難しい。

(5) 学力保障・進路指導

<成果>

- ・児童生徒とその保護者が、日本の教育制度や栃木県の入試のしくみについての理解を深めることができた。
- ・児童生徒が進路実現や学習への意欲を高めることができた。

<課題>

- ・在籍校においての、担任と児童生徒、保護者間のコミュニケーションが不十分である。

(6) 日本語指導ができる、又は児童生徒の母語が分かる支援員の派遣

<成果>

- ・指導対象児童生徒が増え、教科指導が充実した。
- ・適切な教科指導が、児童生徒の学習意欲や安心感につながっていた。
- ・母語での支援によって、児童生徒が教室の中で居場所を作ることができた。

<課題>

- ・人材確保と指導力の向上が望まれる。

(12) 成果の普及

<成果>

- ・地域のみでなく、全国に成果を発信できた。

<課題>

- ・より多くの場で発信できるとよい。

日本語指導が必要な児童生徒のうち、特別の教育課程で指導を受けた児童生徒の割合	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校
	91%	94%	%	%	%	%
うち、個別の指導計画の指導目標が達成できた児童生徒の割合	4%	18%	%	%	%	%

4. その他(今後の取組予定等)

今後は、拠点校の増設と指導者の増員により、指導体制を拡充していきたい。

外国人児童生徒が生き生きと学校生活を送り、夢や希望をもって成長できるよう、一人一人の日本語習得や学校生活への適応の状況に応じた指導の充実を図っていく。

※枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない) 成果物等があれば別途提出すること。